



取扱説明書 灌水ポンプ BP252M



ガソリンのみで運転
しないでください。

使用燃料の混合方法はP9
を参照してください

目次

◎はじめに	1	・始動と停止方法	11
1. ⚠️ 安全に作業するために	2	・運転	14
・作業前の注意	2	・停止	15
・使用時の注意	3	・使用後の注意	16
2. 各部のなまえと操作部のはたらき	5	6. 清掃と点検・整備	16
3. ⚠️ 警告ラベルの取扱い	5	7. 長期保管	19
4. 付属品	6	8. ポンプの故障診断と処置	20
5. 取扱および操作のしかた	7	9. エンジンの故障と処置	21
・ホースの組立	7	10. 仕様	22
・始業点検	8	11. サービスと保証について	23
・混合燃料の準備と補給方法	9		

ご購入いただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ご使用前に、「安全に作業するために」を必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

「注意」 この取扱説明書には、国際単位を表示しております。
 下記の換算数値を良く読んでご理解の上ご使用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備 考
面 積	[m ²] (平方メートル)	10000[m ²] =1[ha] = 100[a] =10 反歩=3000 坪	[a] (アール) [ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回 転 速 度	[s ⁻¹] (毎秒) [min ⁻¹] (毎分)	1[min ⁻¹] = 1[rpm]	[rpm]	※②
力	[N] (ニュートン)	9.8[N] = 1[kgf]	[kgf] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8 [N・m] = 1[kgf・m]		
圧 力	[Pa] (パスカル) [N/m ²] (ニュートン毎平方メートル)	0.98[MPa] =10[kgf/cm ²] 9.8[Pa]=1[mmH ₂ O]	[kgf/cm ²] [mmH ₂ O]	
工 率 ・ 動 力	[W] (ワット)	735.5[W]=1[PS] 9.8[W]=1[kgf・m/s]	[PS] [kgf・m/s]	

※注意事項

- ①土地面積については、[a],[ha]を使用することがあります。
- ②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

ご使用の前によくお読みいただいて充分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの本書をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保存し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら、最寄の取扱店にお問い合わせ下さい。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄の取扱店、または当社営業所にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■使用目的

本製品は灌水を目的とした製品です。この目的範囲外の使用が原因での事故、および分解を行ない、それに伴って生じた事故に関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意表示について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ 危険 …もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。

⚠ 警告 …その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるもの。

⚠ 注意 …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

注意 …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

■この製品を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある **⚠** (安全注意マーク) 印の付いている警告ラベルを一枚ずつ説明してください。

この製品と一緒にこの取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を会得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。ご家族に運転させるときも同じように説明してください。

1. ⚠️安全に作業するために

作業前の注意

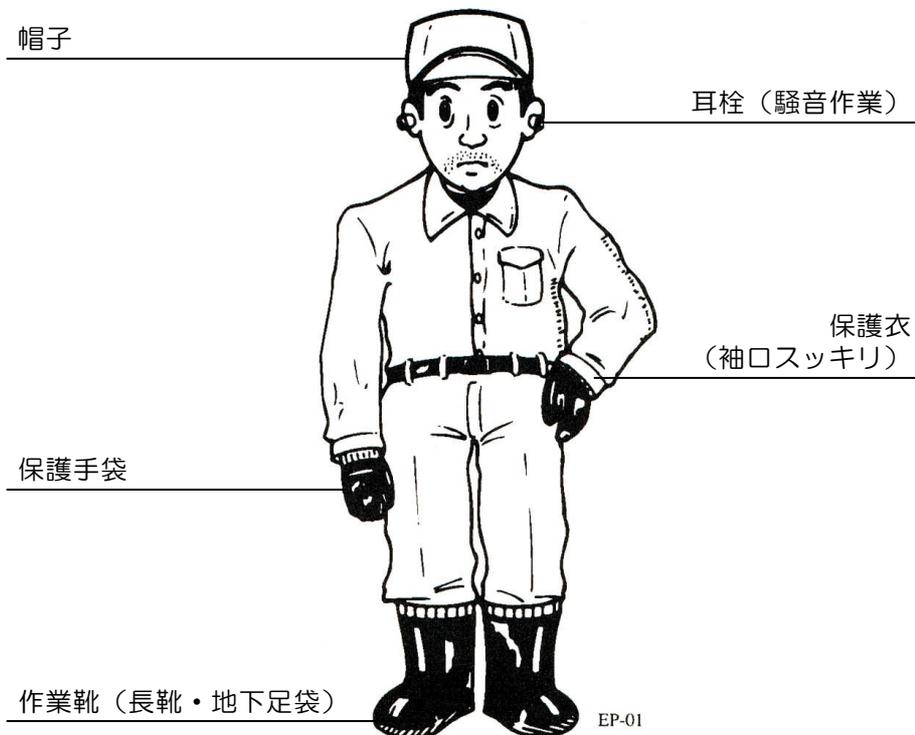
こんな人は、作業してはいけません

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人



服装は作業に適していますか？

身体にあったものを着用する作業者



⚠️警告

保護具は、常に正常な機能を有する様、点検・整備を行ない、正しく使用してください。

使用時の注意

使用用途

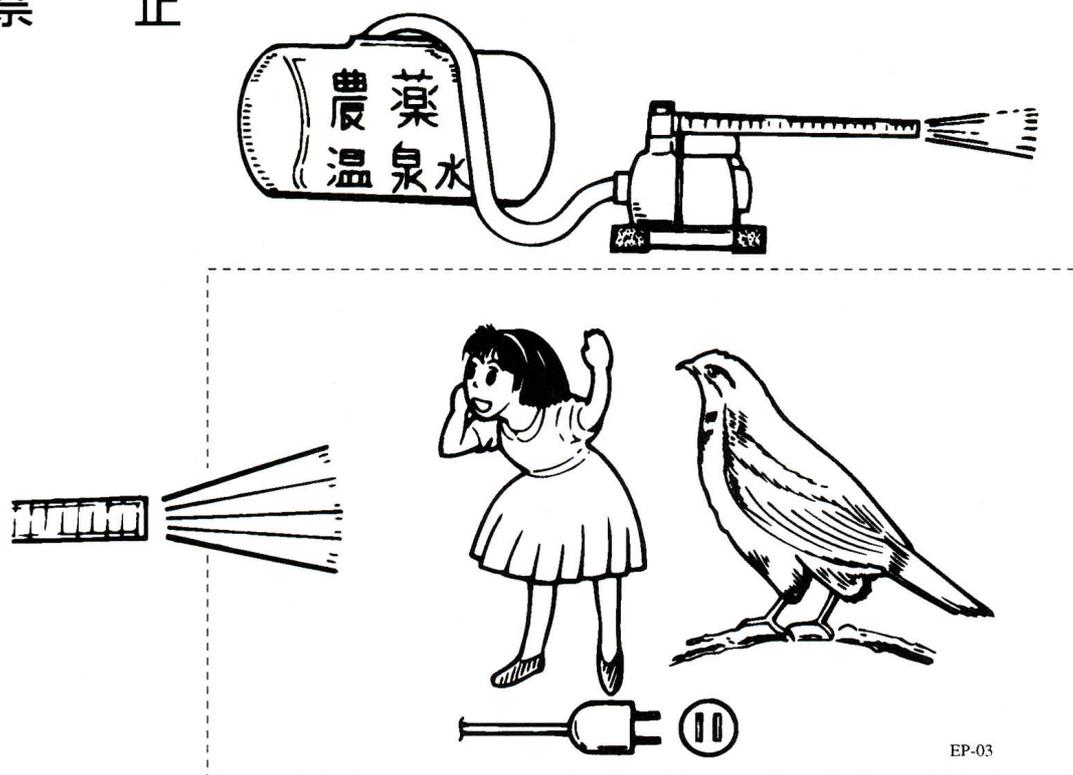
- 水田、畑地、果樹園等への灌水
- スプリンクラー散水
- 一般排水、土木排水
- 作業機等の洗浄

(●使用液は清水、地下水、河川の水、用水路の水を使用してください。農薬、化学薬品、温泉水での使用はお止めください。)

ポンプについて

- 吐出口からは多量の水が吐き出されますので、人や動物に向かって吐き出さないでください。
- 運転中は、本機から離れたりせず、またむやみに本機に人を近づけないでください。
- 図のような使用は危険です。行なわないでください。

禁 止



EP-03

使用時の注意

エンジンについて

! 危険

- 混合燃料は可燃物です。運転の場所に火気は近づけないでください。
- 混合燃料の補給や手入れをする時は、タバコなどの火気を近づけないでください。

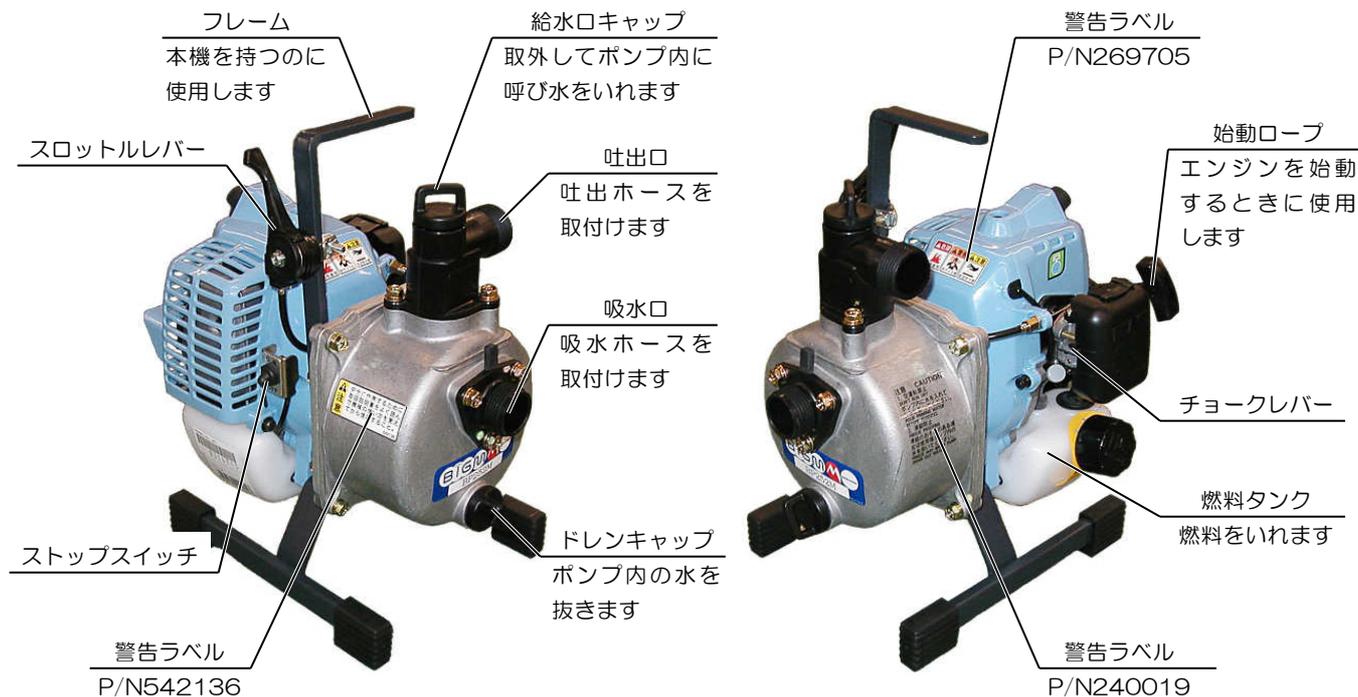
! 警告

- 混合燃料の補給はエンジンを必ず停止し、冷えてから行ないます。こぼれた混合燃料はきれいに拭きとっておきます。
- 始動は必ず給油した場所から 3m 以上離れたところでエンジンを始動してください。
- 混合燃料を基準容量以上補給したり、激しい振動を与えたり本機を傾けたりしないでください。
- エンジンの排気ガスは有害です。閉め切った室内での運転は、CO 中毒の恐れがありますので、おやめください。また、吸込まないよう注意してください。

! 注意

- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー・シリンダフィンなどに手を触れると、やけどをする恐れがあります。
- エンジン運転中のプラグには高電圧が通っています。電気ショックを受けますので運転中は絶対にプラグやプラグコードに手を触れないでください。
- 運転中に混合燃料がもれている場合は、火災になるので直ちにエンジンを停止して修理してください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じた時は、直ちに作業を中止して修理してください。

2. 各部のなまえと操作部のはたらき



3. 警告ラベルの取扱い

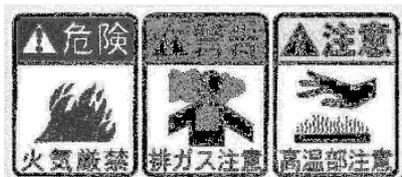
⚠ 注意

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷した時は必ず新しいラベルと交換し、同じ場所に貼ってください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

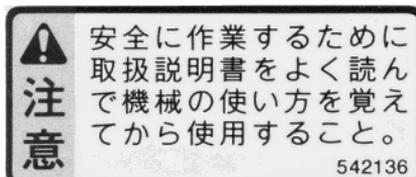
※本製品には、下の図に示す位置に次の警告ラベルが貼ってあります。

下記にその内容を記載してありますので、よく読んでその意味を充分理解した上で、表示内容を守って作業してください。

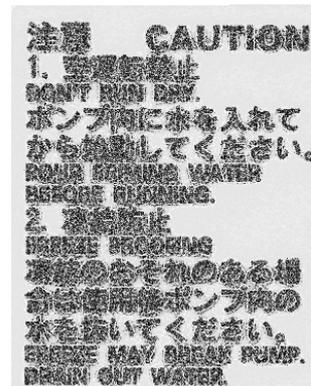
P/N 269705



P/N 542136

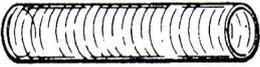
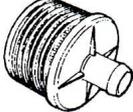
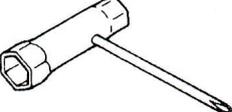


P/N 240019



4. 付属品

●本機および付属品を点検して、損傷、欠品等がありましたら、すぐに御購入になりました販売店にご連絡ください。1ヶ月以上経過してのお申し出には応じかねることがあります。

吸水ホース		×1	P/N 240027
ホースメネジ		×2	P/N 240028
ゴムマルパッキン		×2	P/N 240859
ホースメネジ中芯 (25mm)		×2	P/N 240858
ストレーナ		×1	P/N 240564
ホースバンド		×3	P/N 240030
コンビボックススパナ		×1	P/N 549653
取扱説明書		×1	P/N 548691

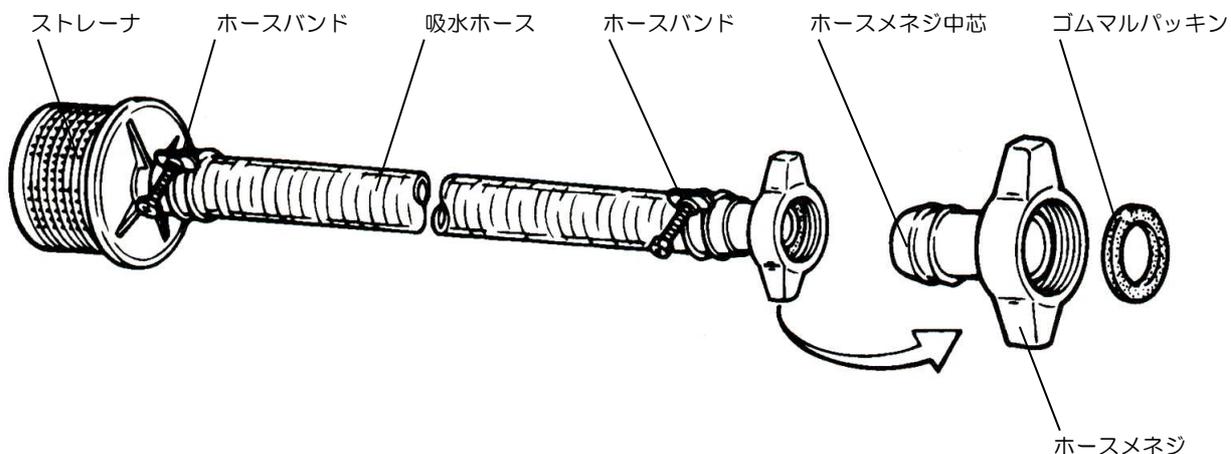
●オプション（別売）品

サイズ	品番	名称
25 (1 インチ)	534415	カムロック 25

5. 取扱い及び操作のしかた

ホースの組立

吸水ホースの組立

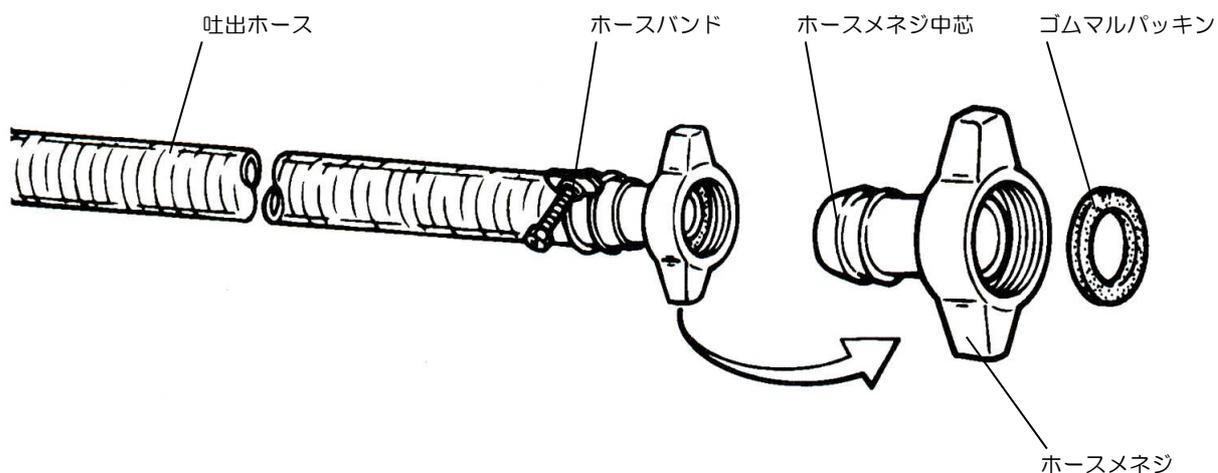


- ホースへのホースメネジ中芯挿入は、ホースメネジが自由に回せるように5~10mmの間を設け、ホースバンドにて、空気の吸込みや水漏れがないように確実に締付けてください。

注意

- 吸水ホースは負圧になるので、つぶれない様なホースを使用してください。

吐出ホースの組立



- 吐出ホースは付属品になっておりませんので、必要に応じて販売店へお問合わせください。

始業点検

始業点検

その日の作業をはじめる前に行なう点検が始業点検です。始業点検は毎行なうことにより、故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので必ず実施してください。

点検内容

- 機械各部のネジがゆるんでいないか点検します。ネジがゆるんでいると運転中部品が落下し故障の原因となります。
- エアークリーナの点検・清掃。(P17 参照)
- エンジン排気口が詰まっていないか点検します。
- ポンプは水源の近くの水平な場所に水際より離して設置します。
- 吸水ホースはできるだけ短く、曲がりや折れのない様にするとうポンプの性能は良くなります。吸水ホースの重量がポンプにかかってポンプが傾いたり移動したりする場合は、吸水ホース、ポンプを固定してください。
- 吸水ホースは負圧になるので、つぶれないホースを使用してください。
- 吸水ホースは必ずストレーナを付けた状態で使用してください。ストレーナなしで運転すると石、ゴミ等を吸い込み故障の原因になります。
- ストレーナは完全に水源に入れ、浮き上がったり、泥に埋まったりしないようにしてください。

混合燃料の準備と補給方法

(1) 混合燃料の準備

注意

ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付きます。

危険

- 混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守って取扱ってください。
- 混合燃料を補給するときは必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。
- 混合燃料は金属製の缶に入れて運搬、保管してください。

燃料は無鉛ガソリンに 2 サイクル専用オイルを
25 (ガソリン) : 1 (オイル)
の割合に混合した混合燃料を使用してください。

注意

- 混合燃料は 1 回で使い切る量だけ作ってください。
- 1 ヶ月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障します。

● 燃料混合表

ガソリン	2 サイクル専用オイル
1 L	40 ml(cc)
5 L	200 ml(cc)

● 混合燃料の作り方

- ① 混合器はいつもきれいにして使用してください。
- ② 混合器に、混合するガソリンの半分を入れてください。
- ③ 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ④ 混合器のキャップを確実に締め、混合器をよく振ってガソリンとオイルを混合してください。

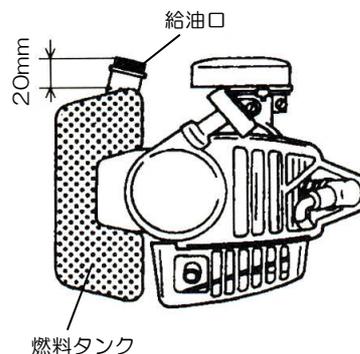


注意

燃料タンクに直接ガソリンやオイルを入れないでください。

(2) 混合燃料の補給方法

燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。
混合燃料は燃料タンクいっぱいに入れないで、給油口先端から
20mm（給油口根元付近）以下になるようにしてください。



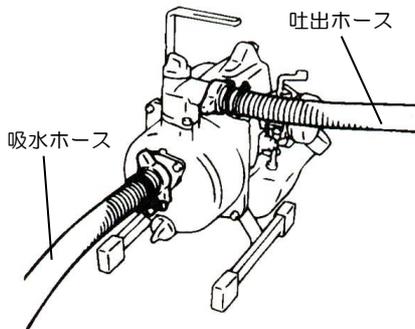
⚠ 警告

- 混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- キャップはしっかり締めて、混合燃料がもれないことを確認してください。
- キャップから燃料もれがある場合、キャップを締め直してください。燃料もれが止まらない場合は、修理してください。
- 補給時にエンジンからの燃料もれがないか確認してください。もし燃料もれがある場合は、ただちに修理してください。

始動と停止方法

(1) ポンプ

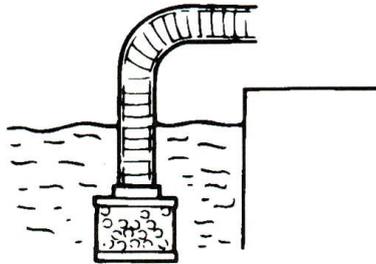
1. 吸水ホース・吐出ホースを本機に取付けます。



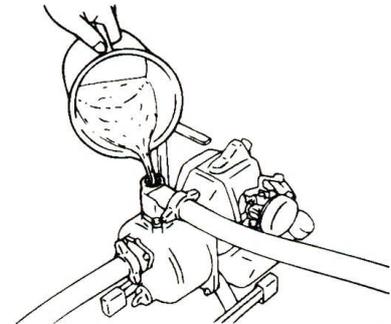
MP25B-4

●パッキンを確認してください。

2. 吸水ホースを水源の中に入れます。



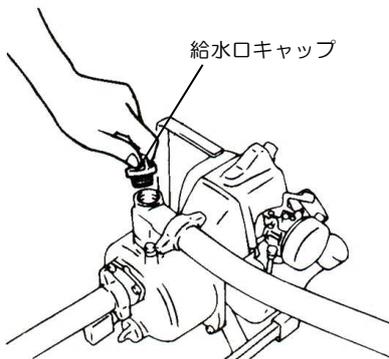
3. 吸水口より、ポンプ内が呼び水でいっぱいになるまで吸水します。



MP25B-5

●吸水の際、本機を揺らすと空気抜けが良くなります。

4. 吸水口キャップをしっかりと締めます。



MP25B-6

注意

- エンジン始動前に必ずポンプ内に呼び水が入っていることを確認してください。
- 空運転をするとシールが損傷します。

(2) 始動

⚠ 警告

- 始動は必ず、給油した場所から 3m 以上離れたところで行なってください。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所で運転しないでください。

⚠ 注意

- 作業機から発する電波雑音により、無線装置が誤作動するおそれがあります。無線装置の近くでは、運転しないでください。

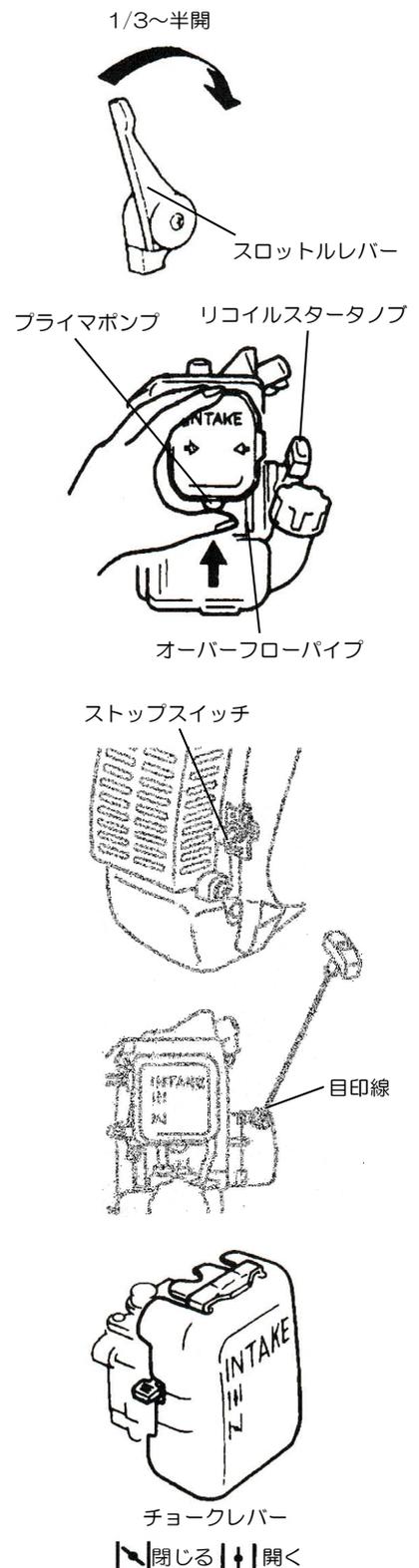
- ①スロットルレバーを 1/3～半開にしてください。
- ②プライマポンプを矢印側から押してください。
オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻り、空気の泡が出なくなるまで何回も押してください。(燃料タンクに混合燃料を入れて最初に始動するときには、7～10 回程度押す必要があります。)
- ③エンジンが冷えているときは、チョークレバーを  (閉じる) にしてください。気温が高いときやエンジンが暖まっているときは、チョークレバーを  (開く) にしてください。
- ④ストップスイッチを「ON」にしてから、リコイルスタータノブを引いてください。(リコイルスタータノブを引くとロープに緑色の目印線が出てきます。その目印線のところまで引くのが始動の目安です。その後スタータノブを戻し始めると、そのことをスタータが感知してエンジン始動が始まります。強く引いたり、早く引いたりする必要はありません。ロープの目印までスムーズに引き、スムーズに戻してください。

注意

- リコイルスタータノブを戻したロープが引き込まれず、たるんでしまった場合や、引き始めから引き力が大きく感じるときは、5～10cm ほど強めにリコイルスタータノブを引くと正常に戻ります。

- ⑤リコイル操作を繰り返し、エンジンが始動したら、エンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に  (開く) にしてください。爆発音のみで始動しなかった場合は、チョークレバーを  (開く) の位置にしてリコイルスタータを勢いよく引いて始動してください。爆発音が一回でもあった場合は、チョークレバーを  (開く) の位置にしてください。

このときのように、初めて爆発したことを初爆といいます。



注意

●初爆の音を聞きのがして、チョークレバーを閉じるのままリコイルスタータを何回も引き続けると、混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなります。チョークレバーを閉じるで5~6回リコイルスタータを引いても初爆がない場合（聞こえなかった場合）は、チョークレバーを開くにして、スロットルレバーを全開にして、リコイルスタータを5~6回勢いよく引いて始動してください。

⑥エンジンが始動したら、スロットルレバーは低速回転側いっぱい（アイドル位置）に戻し、1~2分間暖機運転してください。

注意

- 感電事故防止のため、運転中はプラグキャップや高圧コードにさわらないでください。
- ここで実作業に入る前に、(3) 停止の項に従って、ストップスイッチを押してエンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。

(3) 停止

①スロットルレバーを、低速回転側いっぱい（アイドル位置）に戻し、1分間位冷却運転してください。冷却運転しないでエンジンを停止するとバックファイヤーを起こし、爆発音を発生することがあります。

②ストップスイッチを「OFF」にしてください。

注意

- ストップスイッチの故障で、スイッチを押してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを閉じるの位置にしてください。エンジンは失速停止します。
- その後すぐ最寄の販売店にストップスイッチの修理を依頼してください。
- 修理が完了するまでは灌水ポンプを運転しないでください。

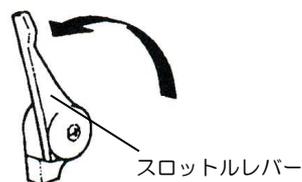
注意

高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は、スロットルレバーをアイドル位置に戻してからエンジンを停止してください。

注意

やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラ等の高温部にさわらないでください。

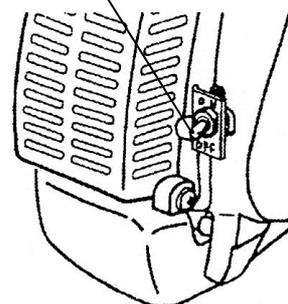
低速回転側いっぱい
(アイドル位置)



プラグキャップ
高圧コード

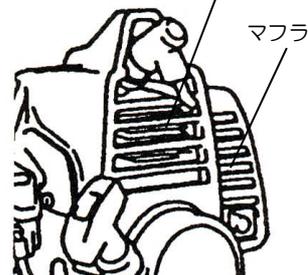


ストップスイッチ



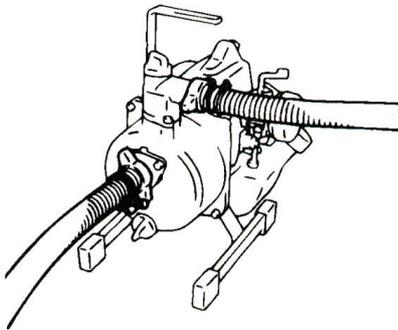
シリンダ

マフラ



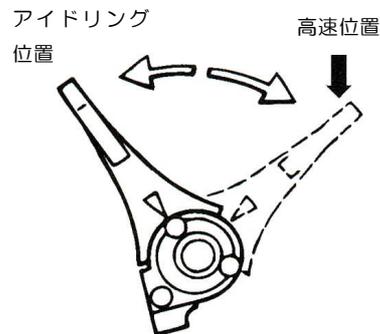
運転

1.ポンプに異常音がないか確認します。



MP25B-4

2.スロットルレバーを所定の位置に合わせ運転します。



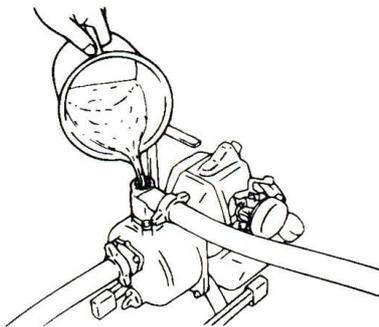
回転を上げる場合は急激に上げず徐々に上げてください。

注意

3 分間位経過しても、吸水ホースに水が吸い込まれない時は、ただちにエンジンを停止してください。
P20 を参照して適切な処置をして原因を取り除いてください。

注意 ●運転中は下記に注意してください。

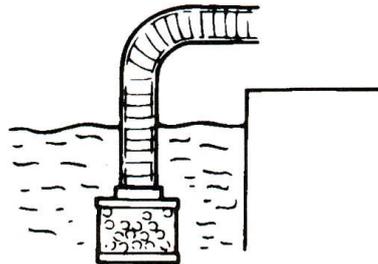
1.空運転厳禁
呼び水は必ず入れてください。



MP25B-5

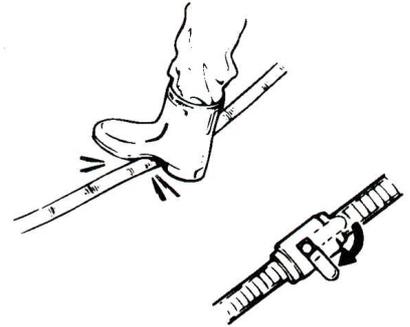
シールが損傷してしまいます。

2.吸水ホースは必ず水源の中へ。



ケーシング内の呼び水の水温が上昇しシールが損傷してしまいます。

3.吐出ホースをつぶしたり、吐出側のコックを急に締めないでください。



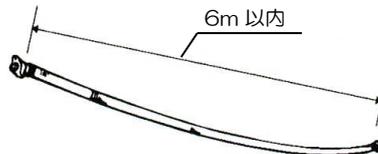
ケーシングが破損する場合があります。

注意 ●吸水ホースを 3m 以上で使用する場合は下記に注意してください。

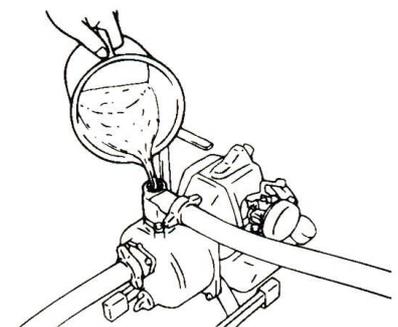
1.ホースを継ぎたす場合は接続部から空気が入り易くなりますので、パッキンを確認し、しっかり締め付けてください。



2.吸水ホースは 6m 以内のものを使用してください。

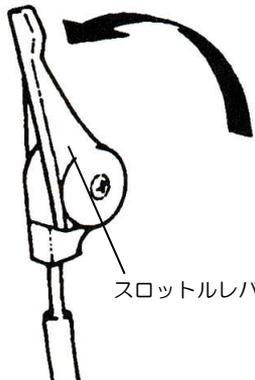
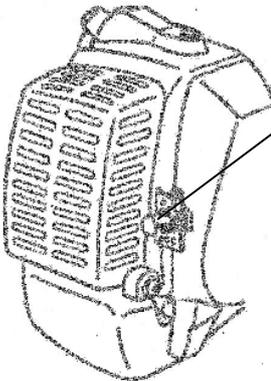


3 ホースが長いと吸水時間が長くなり、吸水が悪くなる場合があります。吸水が悪いときは一旦エンジンを停止しケーシングに呼び水を追加してください。



MP25B-5

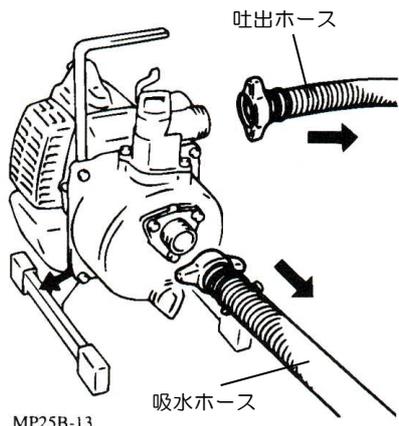
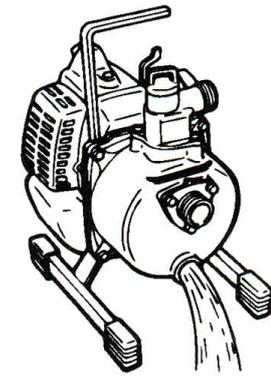
停止

<p>1.スロットルレバーを低速にします。</p> <p>低速回転側いっぱい (アイドリング位置)</p>  <p>スロットルレバー</p>	<p>2.ストップスイッチを「OFF」にしてください。</p>  <p>ストップ スイッチ</p>
---	--

注意

- 高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は低速位置に戻してから停止してください。
- 万一、ストップスイッチの故障で、スイッチを押してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを (閉じる) にしてエンジンを停止してください。

●作業終了時にはポンプの下記項目を行ないます。

<p>3.吸水ホース・吐出ホースを本機から取外します。</p>  <p>吐出ホース</p> <p>吸水ホース</p> <p>MP25B-13</p>	<p>4.ドレンキャップを取外しポンプ内の水抜きをします。</p>  <p>MP25B-14</p> <ul style="list-style-type: none">●水抜きが終了しましたら、ドレンキャップは締付けておきます。
---	--

注意

- 停止後再始動する場合は、ケーシング内の呼び水の量を確認し少ない場合は追加してください。
- 泥水等で運転した場合は、清水で運転しポンプ内を清掃してから停止してください。
- 凍結の恐れのある時は、使用后必ずポンプ内の水抜きをしてください。

使用後の注意

- ポンプ内に残った水は、水抜きをしてください。泥水等で運転した場合は、清水で運転してポンプ内を清掃してから水抜きをしてください。
- 燃料は、全て抜き取ってください。プライマポンプを何回か押してキャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。その後もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 本機を清掃し、保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。

6. 清掃と点検・整備

⚠ 警告

取扱説明書に記載されていない整備・調整は、最寄の取扱店に依頼してください。

⚠ 注意

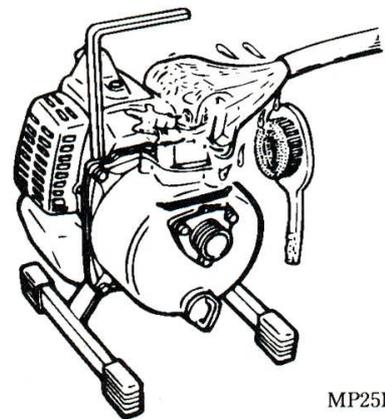
- 部品を交換する場合は、必ず当社指定の純正部品をご使用ください。
- 機械の点検・整備を行なうときは、周りを整理し行なってください。また作業に関係ない人を近づけないでください。

●ポンプ

- ・ポンプ内の水抜きをします。
- ・吸水ホース、吐出ホースはポンプから外しておきます。
- ・外部を布等で清掃し整備をします。
- ・もし、不調か異常がありましたら、その原因について処置します。
- ・泥水、汚れを取り除き、布できれいにみがいてサビ止めをします
- ・各部のネジの緩みを点検し、緩んでいる部分は充分締付けます。
- ・各部配管は、接続口の一端を外して完全に排水します。特に酷寒地では、バルブ配管等の凍結破損を起こすことがありますから充分注意し、各バルブは開けておきます。

注意

本機は直接水をかけて洗わないでください。故障につながります。



MP25B-1-1

●エンジン

(1) キャブレタ

・ワイヤアジャスタの調整

スロットルレバーをいっぱいに戻したとき、スロットルワイヤの遊びは 1~2mm が正常です。

この範囲になるようロックナットをゆるめて、ワイヤアジャスタで調整してください。

調整した後、ロックナットを締めて固定してください。

・アイドルスクリュの調整

エンジンのアイドル回転速度は出荷時に調整済みですが、もし調節が必要な場合がありますら次の要領で調整してください。

①アイドル回転が高い場合

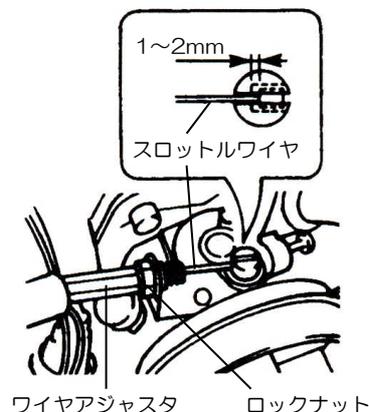
アイドルスクリュを

左（反時計方向）に回す。 → 回転下がる

②アイドル時にエンジンが停止してしまう場合

アイドルスクリュを

右（時計方向）に回す。 → 回転上がる



⚠ 注意

(2) ~ (5) の点検・整備は必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行ってください。

(2) エアクリーナ

エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良を起こします。

25 時間使用したら必ず清掃してください。また、チリやホコリの多いところで使用したら場合は、一日一回清掃してください。

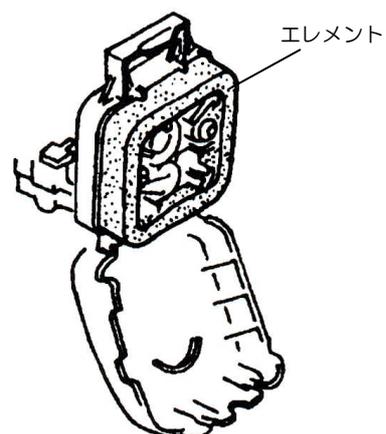
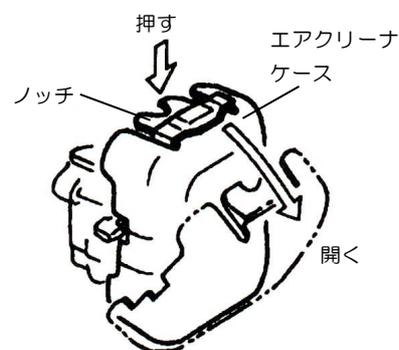
①エアクリーナケースを開けてください。

②エレメントを取り出し、ガソリンで洗ってください。

③エレメントを絞ってから元の位置に取り付けて下さい。

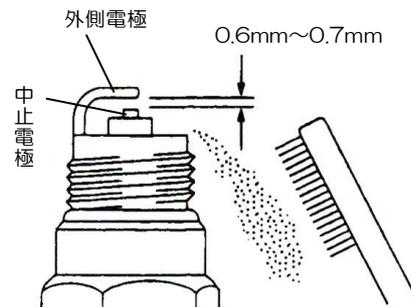
④エアクリーナケースを閉じてください。

(閉じた後、ノッチが確実に入っていることを確認してください)



(3) 点火プラグ

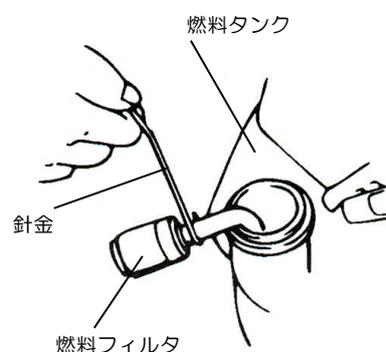
- ①点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm（ハガキ3枚分程度が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。また、電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤブラシ等で清掃してください。
- ②中止電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、プラグを交換してください。
- ③点火プラグの点検は25時間毎に行なってください。



(4) 燃料タンク

燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不良の原因になります。

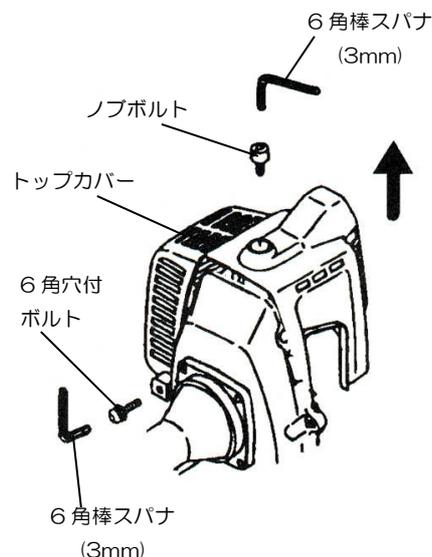
- ①25時間毎にフィルタを取り出して、ゴミを取り除きガソリンで洗浄してください。
汚れがひどいときは、フィルタを交換してください。
- ②燃料タンク内にゴミがあるとフィルタが詰まりやすくなります。
ゴミを取り除き、燃料タンクをフィルタをガソリンで洗浄してください。



(5) エンジン各部の清掃

エンジン各部にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートの原因になります。10時間毎に清掃してください。

- ①6角棒スパナ（3mm）を使って6角穴付ボルトとノブボルトを取り外し、トップカバーを外し各部を清掃してください。
- ②清掃後は、カバーを元の位置に取り付けてください。



⚠ 警告

カバーやボルトを外したまま、エンジンを運転しないで下さい。

(6) マフラ

マフラ内にカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具を必要とします。最寄りの取扱店に点検整備をご依頼ください。

7. 長期保管

「清掃と点検・整備」P17～18の(2)～(6)項の整備を行ってから保管してください。
また損傷個所がある場合は必ず修理してから保管してください。

(1) 混合燃料がタンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。一週間以上使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取ってください。

- ①燃料タンク内の混合燃料を燃料缶に排出してください。
- ②キャブレタのプライマポンプを混合燃料が出なくなるまで押し、配管通路内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。
- ③もう一度燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
- ④ポンプに呼び水をいれて始動させ、エンジンが止まるまで運転してください。停止後ポンプ内の水抜きを行ってください。(ポンプの空運転は絶対にしないでください)

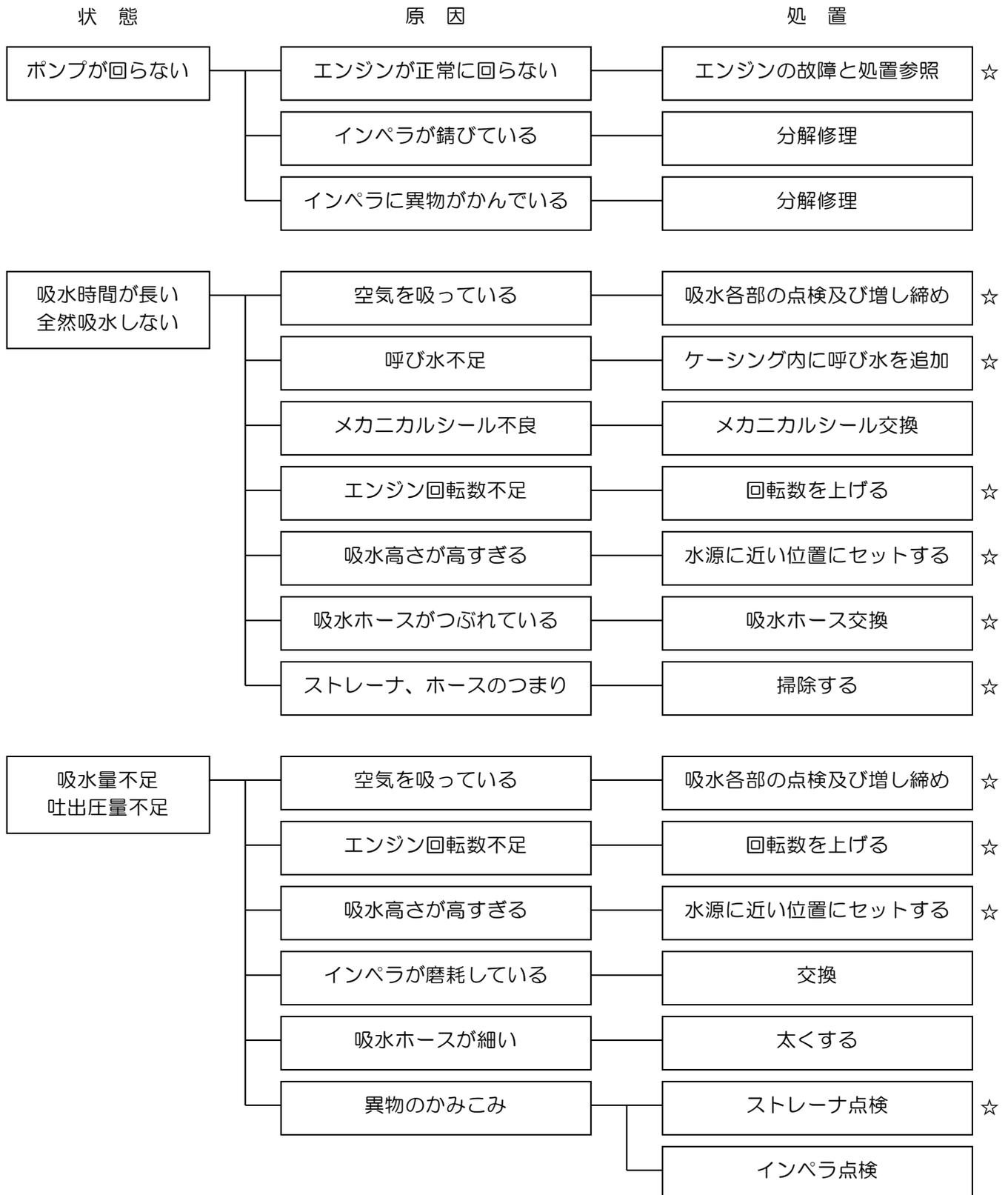
(2) 点火プラグを外し、プラグ穴の中へ2サイクルオイルを数滴注入してください。2～3回リコイルスタータをゆっくり引いた後、点火プラグを取り付け、締め付けてください。リコイルスタータを引いて、重くなった位置で止めてください。
作業時に油滴等が飛び散ることがありますので、保護メガネ等で目を保護してください。

(3) 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

8. ポンプの故障診断と処置

●☆印以外については、最寄の取扱店に調整、修理を依頼してください。

●☆印についてはお客様がご自分で出来る点検内容です。



9. エンジンの故障と処置

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている。	テールパイプのカーボンを取り除く。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる。 [P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照]
燃料フィルタにゴミが詰まっている	燃料フィルタを清掃する。 [P18(4)燃料タンクの項目参照]
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。 [P18(3)燃料タンクの項目参照]
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。

(2) 始動するが回転が上がりなかつたり、出力が十分でないとき。

故障原因	対策
チョークが全開になっていない。	チョークを全開にする。
スロットルレバーが充分に開いていない。	スロットルレバーを充分に開く。
燃料混合比を誤っている。	正規の燃料混合比の混合燃料を入れかえる。 [P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照]
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃する。 [P18(4)燃料タンクの項目参照]
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃する。 [P17(2)エアクリーナの項目参照]
マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている。	テールパイプのカーボンを取り除く。
冷却風通路やシリンダフィンにゴミが詰まっている。	冷却風通路やシリンダフィンのゴミを取り除く。 [P18(5)エンジン各部の清掃の項目参照]

(3) 運転中、回転が次第に下がる時

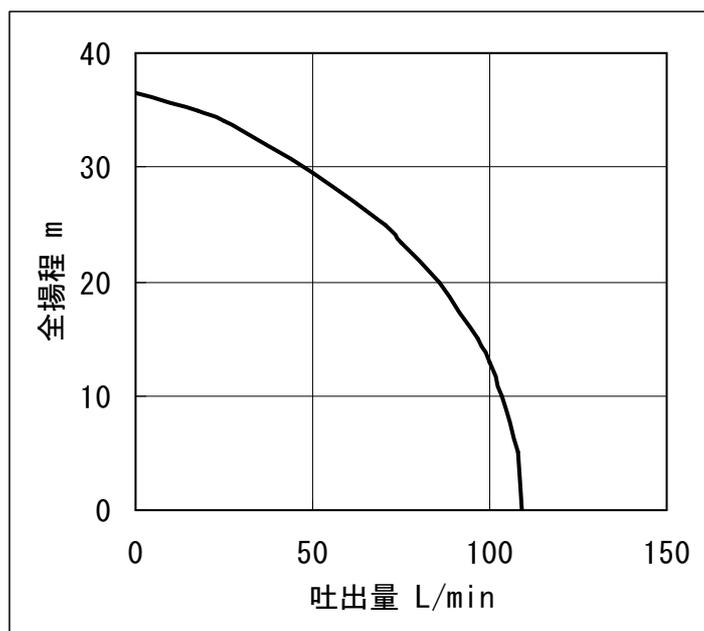
故障原因	対策
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる。 [P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照]
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃する。 [P17(2)エアクリーナの項目参照]

10. 仕様

BP252M 仕様		
本機	寸法 (長×幅×高) mm	295×210×335
	乾燥重量 kg	4.9
	吸水・吐出口径 mm	25(1")
	最大吐出量 L/min	110
	最大全揚程 m	36
エンジン	名称	BE230
	型式	空冷2サイクル正立ピストンバルブ方式
	排気量 cm ³	23
	使用燃料	潤滑油混合燃料
	使用潤滑油	2サイクル専用オイル
	混合比	25:1
	燃料タンク容量 L	0.5
	気化器	ロータリバルブ方式ダイヤフラム
	点火方式	無接点マグネトー点火
	点火プラグ	チャンピオン CJ8Y
	始動方式	マジックスタートリコイル式
停止方式	トグル式	

●改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

自社試験による参考値ですので、目安としてご活用ください。



11. サービスと保証について

■保証書について

⚠ 警告

機械の改造は危険ですので決して改造しないでください。改造した場合や、取説に述べられた正しい使用目的と異なる場合、使用上の誤りがあった場合は、メーカーの保証対象外になりますのでご注意ください。また、保証書をよくお読みください。

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになった後は大切に保管してください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。
お買い上げの販売店にご連絡ください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容

なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。お買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。
この時の整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後 8 年です。
但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

機体廃棄時のお願い

本機を廃棄する場合は最寄りの取扱店、
又は当社の営業所にお問い合わせください。

製品につきましては万全を期しておりますが、万一お客様に不都合が生じた場合には、下記のフリーダイヤルへ内容を充分ご確認の上ご連絡ください。

◆お客様相談窓口(丸山サポートセンター)

0120-898-114

ご利用時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

製造元： **株式会社 丸山製作所**

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-15 TEL03(3252)2288

<丸山サポートセンター>フリーダイヤル 0120-898-114